

東京大学 理系 Part 1

おう ぶ せき
王 璞石さん（理Ⅰ・筑波大学附属駒場）

そえじま ゆう た ろう
副島 裕太郎さん（理Ⅰ・開成）

みや せ たまき
宮瀬 環さん（理Ⅱ・女子学院）

おおさわ ゆういち
大澤 悠一さん（理Ⅰ・駒場東邦）

はやし ゆり
林 ゆりさん（理Ⅰ・光塩女子学院）

わたなべ たくみ
渡部 匠さん（理Ⅰ・早稲田）

中1からグノに通っていますから、英単語を英語と日本語の対応で覚えたことはありませんし、そのやり方には無理があることは先生から何度も言われてよくわかっています。授業で扱った英文に出てきた単語を文脈で覚えるのが性に合っていました。

林 ゆりさん（理Ⅰ・光塩女子学院）

目次

- 東大を志望した動機…………… P15
- 入塾のきっかけ…………… P16
- グノーブルの英語…………… P17
- 英語が伸びた時期…………… P18
- グノーブルの先生…………… P19
- グノーブルの環境…………… P20
- 後輩へのアドバイス…………… P20

※●は、このPDFフルバージョンのみの掲載項目

東大を志望した動機

王：学校の中に「東大に行こう」という空気がありました。だから、中1の時には東大志望がふんわり決まっていた、周りと話しているうちにその思いが強まっていきました。今考えると「別の選択肢があったかも」とも思いますが、結果として東大に合格しました。

渡部：僕も中2か中3の時に東大を目指す決心をしました。当時から数学が好きで、数学を教えてくださいました先生方が全員東大数学科出身だったことから、東大に憧れるようになりました。さらに、東大数学科の図書館は蔵書が多くて環境がいいと聞いていたのも大きいです。

大澤：僕は2人と違って、東大受験を決めた時期は高校の初めです。成績上位の人たちは、東大が医学部という傾向だったので、それに影響されました。僕は「医者になろう」とは思わなかったので東大にしました。高3で本格的に東大を志望するようになって、後付けで「物理学や理工系のことをやりたいな」と考え始めました。

宮瀬：私は高2の半ば頃に東大に決めました。母が東大で職員として働いており、時々遊びに行ったりしていたので、東大はなじみのある大学なんです。サマーキャンプ*でも東大生と出会い、そこでの影響もありました。私の出会った東大生には物事を深く正確にとらえようとする姿勢があって、「カッコいいな。自分もそうになりたいな」と憧れを抱くようになったのが志望動機です。

* HLAB（エイチラボ）主催のサマーキャンプ。詳細はGno-let vol.20 グノーブル卒業生インタビュー2期生高田修太さんの記事でお読みいただけます。

副島：中学生の頃は特に東大を考えてはいませんでした。東大志望になったのは高2の時です。大学を選ばなければいけない時、「学部をどうしようかな？」と悩みました。でも、明確に学部を決める理由が見当たらないので、もう少し悩みたくて、悩むための環境が整っている東大にしました。最先端の研究や優秀な教授、レベルの高い学生に囲まれながら教養学部の2年間考えられるのが魅力です。

林：中学生の頃は自分のレベルがわかっていなかったの、進路を決められませんでした。でも、高2の4月頃に「東大を目指せそうだ」と思って東大に決めました。東大生に知り合いが多くて、東大についていろいろ話を聞くうちに、「自分も東大に行きたい」と思い始めたのがその志望動機で



王 璞石さん（理Ⅰ・筑波大学附属駒場）



大澤 悠一さん（理Ⅰ・駒場東邦）

す。現状、物理や宇宙系に興味がありますが、高校で物理を詳しく学んでいないので、どこかの学部がいいということもはっきり決まられていません。だから、教養学部で2年間しっかり悩んでから学部を選ぶ進振りにも心惹かれました。

大澤：僕も、物理や化学を学びたいとは思っていますが、どういう領域に進むかがはっきり決まっているわけではありません。2年の猶予期間がある進振りありがたいですね。

渡部：僕は数学科に憧れていますが、数学科だと就職が難しいという問題もあります。そのため、自分の中でも本当に数学科にするかどうか決まられていないんです。そんな僕にとっても進振りは助かります。

副島：僕も学部を決めきれないので進振りが必要です。一時期は文転を考えたり、医学部を考えたり、高校時代も進路が二転三転して本心がわからないんです。学部を決めるのは無理だったので、東大に入ってから考えます。

林：学部を決めて受験すると、「自分はこの学部合っているのかな？」という不安が付きまとうと思います。私は学校の勉強の中では数学が一番好きでしたが、高校数学と大学数学は楽しさも深さも違うはず。だから、「大学では数学ではなく物理にしようかな？」と考えていますが、まだ確定ではないので、進振りまでに決めるつもりです。

宮瀬：私が高2の時に興味を持った格差問題は、様々な解決方法が考えられます。文系の視点から制度を変える方法もあるし、理系の視点から技術的な解決もあるし。一つの問題でも複数の分野にまたがっていますから、受験時に学部を決めるのは難しいです。

王：僕は、やりたいことが決まっているので、進振りで悩むことはないと思っています。小中学生の頃からエネルギー問題に興味があるので、そちらの分野に進むつもりです。

入塾のきっかけ

林：私は中1の夏に入塾しました。母が探してくれました。他塾も検討しましたが、実際に夏期講習に出てみて決めました。先生がすぐに名前を覚えてくださいましたし、何より、先生の熱心さや、発散されるエネルギーが他塾とは比べものになりませんでした。きちんと英文法を教えてもらえるのも良かったです。

宮瀬：私の母もグノーブルのことを知っていました。英語に強い塾と思っていたみたいです。私がグノに通っている友達から話を聞いて、母に話してみたら、「春期講習に行ってみればいいんじゃない？」と勧められ、高2の春期講習に参加しました。それまで思っていた「塾」とは違い、一体感や授業に参加している感があって雰囲気がとても良く、すぐに気に入りました。特に英単語を語源から教えてくれる授業が新鮮で面白く、鮮明に記憶に残っています。

渡部：僕も高2の春期講習からグノに通い始めましたが、親の勧めも確かにありました。それまで英語の塾に通っていなかったの、受験に備えることを目的にグノに決めました。そもそも他塾を考えてなくて、「通うならグノ」と心に決めていました。「英語といえばグノ」というイメージが強かったからです。

王：僕の場合、姉がグノ生だったのが大きかったです。姉が「グノは英語に強いし、将来に活かせる英語を学べるのがいい」と勧めてくれたので、高1で入塾しました。他塾は検討すらしませんでした。他塾に通っている周りの人たちが大変そうなのを見て、「グノは違うんだ」と思い、グノがますます好きになりました。

大澤：僕は高1の夏期講習からグノのお世話になっています。高1の初めに、「学校の授業だけで大丈夫なのか？」と不安になって、いろいろな塾に体験に行った上で、自分でグノに決めました。他塾の英語は、どこかで見たような長文や問題ばかりを扱い、しかも解説が単調でした。一方、グノの授業は最初に演習と添削があって単調さがなく、扱われる英文にも多様性あって、メリハリのある中で勉強できるのが魅力でした。

副島：高2の初めにグノに入塾しました。高1までは塾に通ってなくて、高2になったら「塾に通わないとマズイ」と思っていました。友達の話聞いて、いろんな塾の講習や体験授業を受けてみましたが、その中でグノは、授業の雰囲気がずば抜けて良かったんです。他塾の授業は「英語の勉強は面白くないけれど、受験に必要なだからやりなさい」という雰囲気が漂っていました。でも、グノの授業は受験以前に「英語は面白い！」というスタンスの授業で、先生も生き生きしていました。開成でもグノで英語の力を伸ばしていた人が多く、皆グノのファンで、「楽しくて力がつく」と評判が良かったんです。それも入塾の決め手になりました。



副島 裕太郎さん（理Ⅰ・開成）



林 ゆりさん（理Ⅰ・光塩女子学院）

グノーブルの英語

王：グノーブルの英語は単語の覚え方に特徴があります。単語帳の暗記はありません。語源の解説があつて感覚的に単語を覚えられました。暗記という感じではなく、頭の中に単語がずっと入ってくる楽しさがあります。授業中に扱う英文に重要単語は何回も出てくるので、文脈で理解できて、記憶に残りやすくなります。

大澤：確かに授業で扱った英文に出てきた単語だと覚えやすいです。使われている文脈を踏まえて、語源からの解説を聞いたり、先生が単語のイメージをジェスチャーで表現したりするのを見てると、ストンと腹に落ちる感覚です。先生は「こういうのもあるよ」と言って関連語や派生語をいくつも書き出してくださるので、「暗記しよう」と思わなくても、自然と語彙が増えていきました。

渡部：グノだと、単語に関しては暗記という感覚が全くありませんでした。英文に出てきた単語を定着させていくというスタイルで十分でした。たまにノートを見直すと、新しい単語を先生が書いてくださったのが思い出されて、特別に「覚えよう」と意識しなくても文章の前後と一緒に記憶が蘇ってくるほどでした。

副島：新しい単語を覚えて語彙を増やしていくことは、外国語の学習には必須です。その場合、単語帳を暗記することに力を注ぐ人が多いと思いますが、暗記できたと思っても、それ以降も同じ単語に頻繁に出会わなければ、読解にも作文にも使えません。だから、単語帳を暗記する作業は結局無駄だと思います。グノの場合、英文に出てくる語彙を語源から解説してもらえるので印象深くなるし、その英文を定期的に音読することで多くの単語が自然と頭の中にストックされていきます。こんなふうに効率的で効果の上がる語彙の増やし方も、グノならではのようです。学校でも周りの人は単語帳で必死に勉強していましたが、僕はグノの授業と復習だけで高2から高3にかけて英語力が一気に伸びたので、単語帳を使わなくても全く不安はありませんでした。

宮瀬：私は暗記から始める勉強は好きにはなれませんが、そもそも効果が薄いと思っています。グノだと、単語も語源から教えてもらえます。そうすると文化的な背景やネイティブの考え方で見えてくることもあって、それだけでも面白いと思います。グノの復習は授業で扱った英文を何度も音読することが中心ですから、そうして何回も触れていく中で単語のイメージを定着させていけます。覚えようとしなくても自然と覚えてしまうので本当に効果的でした。

林：中1からグノに通っていますから、英単語を英語と日本語の対応で覚えたことはありませんし、そのやり方には無理があることは先生から何度も言われてよくわかっています。授業で扱った英文に出てきた単語を文脈で覚えるのが性に合っていました。

王：他塾に通う友人を見ると、単語だけでなく文法もガチガチに覚えて、いろいろな記号を書き込みながら英文を読んでいました。それは言語の勉強ではないと思います。僕もグノに入塾した当初は、基礎が足りていなかったのが文法をやりましたが、それ以降は英語を言語として読むような読み方に切り替えました。

高2高3になると他教科は東大受験対策が中心で、「時間配分はしっかりしろ」とか「回答欄は縦に埋めろ」とか、そういう話ばかりになって面白くありませんでした。でも、グノで受けていた英語だけは、受験科目としてではなく言語として最後まで勉強できました。英語は将来も必ず使いますから、海外でも通用するスキルを身につけたいと思って取り組んでいましたし、そのやり方で受験も成功しました。

大澤：難しい構文の英文を「主語はここにある」とか「これは倒置だ」などと分析していくやり方だと、結局、いつまでも日本語を介して英語を解釈することになります。一方、グノは、語順通りに一発で解釈できるような読み方を教えてくださったので、ネイティブに近い読み方ができるようになりました。音読を繰り返していくうちに自然と読み方が身につくのも特徴的です。グノのやり方だと英文を速く解釈できるようになるので、点数もついてきます。東大受験本番では、数学や物理が難しかったのですが、英語で救われました。

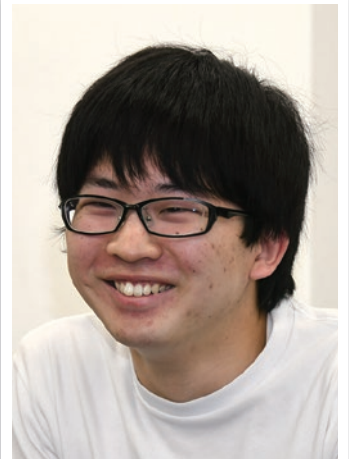
渡部：英語をネイティブ感覚で読んでいけるようになったので、実際に読む時の負担が軽くなって、これからのことを考えても本当に良かったと思います。

授業で扱う英文も、受験の過去問ではなく、ニュースの一部など、実際に使われている英語を取り出してきたものなので、受験に限定されない実践的な英語を学べました。大学院に進んだら留学をしたいのですが、そこでも役立つような英文が多かったですね。教材を残しておいて、これからも使いたいと思っています。

副島：グノは、教材の英文自体やその解説が存分に楽しめる点でも独特でした。よくある英語の授業では、英文そのものの内容が薄かったり、解説でも構文解析をして訳すだけだったり、問題文を解き捨てていくイメージです。



宮瀬 環さん (理Ⅱ・女子学院)



渡部 匠さん (理Ⅰ・早稲田)

一方グノでは、僕たちのレベルに合った読みごたえのある面白い英文が用意されて、解説はその英文の背景にまで及びます。復習の中心は、そういった英文の音読です。興味深い英文なので楽しく復習に取り組み、深く理解している英文を何度も音読していると、英語力も上がり、考えの幅も広がります。自分が何か考えごとをしている時に、ふとグノで読んだ英文のフレーズや内容が思い出されて「思考が豊かになった」と感じたことが何度もありました。

宮瀬：私にとっても英語的な読み方や考え方を習得できたのが大きいです。私たち日本人は、小さい頃から感覚で日本語を身につけてきて、今では十分に使いこなせます。グノだと、英語もそういうふうに感覚で身につけていけるんです。どの言語にもその言葉でしか言えないイメージがあって、先生方はそれを黒板に描いたり身ぶりなどで一生懸命伝えてくださいます。

それから、グノで教えていただいたのは、受験問題の解き方ではなくて、道具としての英語の使い方でした。それに、教材で扱った英文の中には、私たちがこれから学んでいくのに参考にできるヒントや知恵がたくさん詰まっていた。教わったことしかできない勉強ではなく、将来に应用が利く勉強ができたのもグノの良いところです。

林：グノは、本物の生きた英語を学べる塾です。他塾の講習では、教材が配られてそれを予習して授業に参加します。英文をプロジェクターで映す先生や、英文をスラッシュで区切って後から訳す先生ばかりでした。グノでは英文を語順のまま読むので、読むスピードが他塾の人たちに比べて圧倒的に速くなって、テストの点数も自然と上がりました。教材も英字新聞や科学論文など様々な出典から作られていて、そういう文章が私は大好きでした。将来研究したい分野の英文が出てくるのがうれしくて、楽しく英語を学べました。

英語が伸びた時期

王：高2まであまり音読をやっていませんでしたが、高3から本格的にやり始め、この時期に英語の伸びを一番実感しました。「プレゼンするみたいに、内容を英語のまま誰かに伝えるつもりで毎日音読しよう」と先生から言われて、その通りに音読を続けたら、初見の英文でも、内容がすんなり頭に入ってくるようになりました。読むスピードもびっくりするくらい速くなりました。英文がスラスラ読める自信があったので、入試本番にも落ち着いて臨めましたし、まさに、受験を超えた英語力を授けていただいたと思っています。

副島：僕も本格的に音読を始めたのは高3からで、夏頃からは毎日10分以上はしていました。1日も欠かさないようにしようと決めて受験当日も音読してから出かけました。

音読は自分がどれくらい理解しているかを確認する手段にもなっていました。内容をちゃんと理解できていない英文はスラスラ読めませんが、理解できるとスラスラ読めるようになります。さらに理解が深まれば、プレゼンするように読めるんです。プレゼンするように読める英文の内容は自分の一部になっていきますから、いい内容の英文は一生懸命練習していました。グノの教材には、週に1つは好きなジャンルの英文があります。それを読んでいる時は純粋に楽しくて、思わず夢中になって読んでいました。

宮瀬：グノの音読を効果的にするには、何より授業が大事です。授業の解説を受けて十分に理解した英文を、体になじませて、染み込ませていくように音読をすると効果が上がります。ですから、退屈な英文ではそもそもやる気にもなれないと思います。

グノでは真剣に音読できる英文が用意されているので、私も本当に集中して音読していました。お陰で、英語を読むスピードも上がり、集中するということがどうしたことなのかわかりました。私の場合、電車での移動中なども利用してGSL*を聞いていましたが、周りに人がいない時は口を動かしたり声に出したりもしていました。

GSLを使って音読する時は、耳から入ってくる情報も目から入ってくる情報も全部英語で、スピードが速いので余分なことに頭を使う余裕がありません。自然に英文に入り込んで集中していましたが、そういう時は英語脳に切り替わっているのだと思います。

学校で以前、音読を勧められた時は、方法も細かく指示されなくて、CDのスピードが遅かったこともあり、ゆっくりのペースでただ読んでいただけでした。頭の中で日本語に訳していましたが、英語のリズムはほとんど意識すらしていなくて、あまり効果はなかったと思います。

グノのGSLはネイティブの人にとって自然なスピードでした。つまり、日本人にはめちゃくちゃ速いスピードでした(笑)。日本語変換なんてできないスピードだったので、英語のまま理解する習慣が身につきました。

* GSL (Gnoble Sound Laboratory) : 中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

林：私は、高3の時に、毎日30分は音読していました。喉が弱くて音読していると喉が痛くなるの



王 璞石さん (理I・筑波大学附属駒場)



大澤 悠一さん (理I・駒場東邦)

で、湿度の高いお風呂で音読するのが習慣になっていました。

宮瀬さんの言う通り、GSL はとても速くて、それに合わせて音読すると、日本語に訳さず英語のまま理解せざるを得ません。関係代名詞が出てきたからといって返り読みして解釈するなんて絶対にできません。それに慣れていくと、読むスピードはびっくりするくらい上がります。

私は英語が得意だったわけではないし、高2高3でも「英語ができる」という意識はありませんでした。でも、模試では英語が一番の得点源になっていました。グノを信じてきちんと勉強していたのが良かったのだと思います。

渡部：僕の場合、スタートラインが低くて最初は基礎クラスだったのに、グノに通っているうちに成績がみるみる上がり、グノのクラスもどんどん上がって、それが勉強の励みにも自信にもなりました。

大澤：僕はむしろ、グノに入塾する前は英語に苦手意識があったくらいです。でも、最終的には「数学が一番得意で次が英語」というところまで英語が伸びました。入試本番では数学でつまずきましたが、英語でフォローできたのが良かったです。

宮瀬：私は「英語が得意だ」と思って入塾しましたが、グノの英語は難しくて驚きました。一般的な高3の授業で扱うレベルと変わらないレベルの英文を高2の最初から扱っていたと思います。でも、高3の半ばには、英語は受験科目というよりも楽しみに変わっていて、その頃には模試の英語は簡単だと思えるようになっていました。

副島：確かにグノはレベルが高いです。教材のレベルが高いだけでなく、単語を語源から覚えるなど、他塾や学校の英語の勉強とは違う新鮮さがあって、得意不得意に関係なく英語に取り組みました。英語は一度伸びると点数がぶれにくいので、自信を持って本番に臨むための原動力になりました。

グノーブルの先生

林：グノの先生方は身近な存在でした。授業中も先生と生徒との距離が近くて、私は前の方に座っていたので、特に近さを感じていました。先生方の生徒一人ひとりに対する熱心さは、初回で生徒全員の名前を覚えてくださることや、東大や医学部の話をする時に志望の人の方を見ながら話されたりすることからも伝わってきました。そういう授業は頭に入ってきてやすかったですし、授業で聞いたことを復習する時も、授業を思い出しやすいくて楽でした。

大澤：確かに、先生方は生徒と近いところにいらっしゃってとても親密です。名前を覚えてくださったり、授業以外でも話してくださったりするのもうれしかったのを覚えています。何よりも、生徒一人ひとりのことを考えてくださっているのが印象的でした。添削のコメントも丁寧で本当にためになりました。

渡部：先生方が生徒一人ひとりのことをきちんと見てくださっているのを感じていました。グノは集団授業ですが、例えば授業中に誰か一人がトイレに抜けたりすると、解説がいったん中断されて、その間は先生が別の楽しい話をしてくれたりしました。それが新鮮で、最初は驚きでした。先生方は、「生徒全員に授業を伝えよう」と考えていらっしゃるんです。

授業後に英語の勉強のやり方を質問しに行った時、先生はその日の僕の様子を踏まえて、いろいろアドバイスしてくださいました。まさかちゃんと見てくださっていたとは思っていなかったのですが、びっくりすると同時に、先生方の生徒に対する思いの強さを感じました。

宮瀬：先生が生徒にまっすぐ向き合ってくださいるので、生徒の私たちも「がんばろう！」と思えます。先生は生徒思いだけでなく、英語への理解の深さや周辺知識の深さもものすごく、それを毎回楽しそうに教えてくださいます。私は授業のたびに感動していました。「自分も先生に追いつきたい！先生のようにになりたい！」という思いも自然に湧いてきました。

副島：グノの授業を受けていて感じた先生方の印象は、「謙虚」ということです。教わる側と教える側という立場的なことを考えれば、「合格したければ、つべこべ言わずにやれ」という上から目線の先生がいても不思議はないのですが、グノにはそうした圧を感じさせる先生が一人もいません。常に「生徒第一」で親身に接してくださったことに感謝しています。

そうした姿勢は先生だけに限ったことではなく、受付の方々も同じです。塾全体で僕ら生徒をサポートしてくれるというところが、グノの本質的な良さだったと思います。

王：僕が抱いていた一番の印象は「元気」です。高2の時の先生も、高3で英語の読解担当だった先生も身ぶり手ぶりがすごいし、動き回るし、とにかく熱意が伝わってきました。先生から「伝えよう！」というオーラがもりもり出ていて、そういう感情を伴った授業のお陰で、集中しやすい記憶にも残りやすかったです。

高3の英作文の先生は静かなお人柄でしたが、「伝えよう！」というオーラは他の先生方と同じでした。先生が淡々と喋るだけの授業だと、頭に入らないし眠くなりますが、グノでそういうことはあり



副島 裕太郎さん（理Ⅰ・開成）



林 ゆりさん（理Ⅰ・光塩女子学院）

得ませんでした。

とにかく、グノの先生方は、一般的な塾講師のイメージとは大きく外れていました。

副島：先生が「これは面白い」と思って見つけてきた英文を僕たちも読むので、知的好奇心が刺激されましたし、解説にも一層熱がこもって、それを聞いているだけでも楽しかったのだと思います。

世の中には砂浜の砂粒の数ぐらい英語の情報はあふれていますから、その中からちょっとした宝物を見つけるみたいに面白い英文を見つけてくる先生たちはすごいと思っていました。だからこそ、「自分も同じように、いや、もっと面白いものに会えるようになりたい」という思いになりました。

渡部：副島君の言いたいことはとてもよくわかる気がします。僕にとって先生方は、良きライバルみたいな存在だったと思います。「先生たちがそこまでがんばってくださるなら、自分も」と思って、やる気がなくなった時の励みにしていました。先生への競争意識みたいなものが勉強のモチベーションになったのは確かです。

宮瀬：グノの先生方は、英語を教えてくださっただけでなく、人間的な成長という面も促して下さったと思っています。先生方には、信頼できる人がついていて下さっているという安心感を抱いていましたが、一人の人間として見ていただけているうれしさも感じていたので、それが励みになって、自分のことは自分で引き受けていこうという気持ちも持てました。



宮瀬 環さん（理Ⅱ・女子学院）

グノーブルの環境

副島：グノの先生は普段から僕たちと同じ目線で接して下さるのですが、教室がちょっと狭いので、先生たちとの親密さをより感じやすい空間でした。

大澤：直前講習の時ですが、その日の英語の授業が読解と作文のどちらを申し込んだかわからなくなってしまった時に、先生が受付までさっと走って確認して下さったことがありました。

先生だけでなく受付にもお堅い感じはなくて、振替の対応も親切で迅速でした。気軽に振り替えられたのでずいぶん助かりました。グノ全体に生徒思いの雰囲気がありました。

林：受付の方が生徒の要望にすぐ対応して下さるのは本当に印象的でした。他塾にはない優しさがありました。

王：スタッフの方は本当に優しくてスピーディーですね。この座談会のインタビュー項目の紙も僕がなくしてしまってメールで相談したら、1時間も経たずに返信が来たので助かりました。細かく丁寧に見て対応していただきました。

渡部：教室がわからなくなって探していた時も、受付の方が「何かお困りですか？」と声をかけてくださいました。優しい口調なのでこちらから話もしやすく、気持ちが焦っていた時は本当にありがたかったです。受験期は他のことに気を配れなくなるので、そういうところで何のストレスもなかったのは大きかったと思います。

宮瀬：数学を受講していない生徒にも直前期に使う数Ⅲの問題集を配ってもらえましたが、それがとても良い問題集で役立ちました。生徒へのこのような配慮があるからこそ、グノーブルには安心して通うことができました。先生方も受付の方もとても優しく接して下さったので、「休まずに通いたい」と思える塾でした。

後輩へのアドバイス

王：グノは、英語の指導を深く研究している塾だと思います。先生のおっしゃることをきちんと聞いて、やるべきことをやりさえすれば、伸びるのは確実です。グノの先生方のアドバイスを信頼して勉強すればいいと思います。

渡部：グノは他塾とちょっと違う教え方で独特なので不安を感じることもあるかもしれません。そういう時は、気軽に先生に話を聞きに行けばいいと思います。グノのやり方にはちゃんと信頼できる裏付けがあります。

僕自身は、グノの授業がすべて終わった受験直前期の自宅学習中に、改めてグノの良さに気づいたり、精神的に助けてもらっていたことを実感したりしました。グノを信じてついていけばきっと大丈夫です。

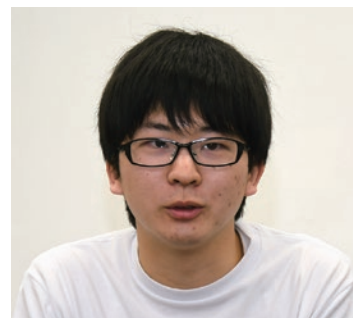
宮瀬：先生方を信頼して復習や音読を大切にしながら勉強して英語を伸ばせました。グノを信じて本当に良かったです。それから、現在の自分よりも少しレベルの高い勉強を続けるといいです。グノは教材のレベルも、周りのレベルも高かったのも、それに追いつこうと必死にがんばった結果、東大にも合格できたんだと思います。

大澤：不得意でも得意でもない科目を伸ばす方が得意科目を伸ばすよりも楽です。だから、僕みたい

に、英語が極端に苦手でもないけれど得意でもないという人は、グノで学べば、英語を大きく伸ばせると思います。授業を受けて、先生方のおっしゃるやり方で音読の復習をすれば英語は伸びます。大学受験だけでなく将来のことまで考えると絶対にグノがお勧めです。

副島：自分が勉強しやすい環境を作っていくことが大切です。僕は、家で勉強したりカフェで勉強したりと、場所を変えながら勉強していました。受験勉強の最中にストレスを感じたり嫌気が差したりしたら、場所を変えるのも有効です。もちろんグノは最高の環境なので、グノで過ごす時間をとにかく大事にしてください。

林：勉強を楽しむのが一番です。受験のために嫌々勉強するのではなく、自分が楽しいから勉強するという気持ちがあると苦痛になりません。「1年後に大学でどんな勉強をしたいか？」を考えて目標を立て、受験をゴールにしないでその先について考えてほしいと思います。受験は通過点なので、楽しみながら最後まで受験勉強に打ち込んでください。



渡部 匠さん（理Ⅰ・早稲田）